



尼崎市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

《概要版》



令和8年(2026年)3月 尼崎市

調査の概要

1. 調査目的

本市における男女共同参画に関する意識の変化等を把握し、「第5次尼崎市男女共同参画計画」及び「第4次尼崎市配偶者等からの暴力（DV）対策基本計画」の策定及び今後の施策展開の基礎資料とするために本調査を実施しました。

2. 調査方法

調査対象	調査期間	調査方法
18歳以上の市民3,000人を 住民基本台帳登録者から 無作為抽出	令和7年(2025年) 10月1日～10月27日	郵送配布、郵送回収及び オンラインによる回答

3. 回収状況

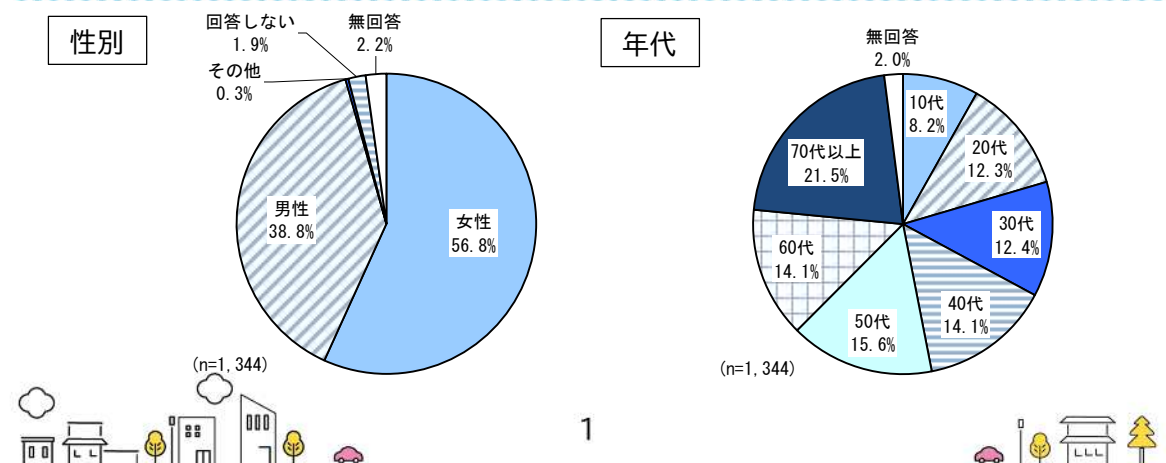
配布数	有効回収数	有効回収率
3,000件	1,344件 (前回：1,196件)	44.8% (前回：39.9%)

(※令和7年(2025年)11月7日時点までの回収票を反映)

4. 報告書を見る際の注意事項

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数として百分率（％）で示しています。
- ・百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、百分率の合計が100％にならないことがあります。
- ・1つの質問に2つ以上答えられる複数回答の質問の場合は、回答比率の合計が100％を超える場合があります。
- ・「前回調査」とは令和2年(2020年)10月に実施した「尼崎市 男女共同参画に関する市民意識調査」のことです。

5. 回答者の属性



Ⅱ

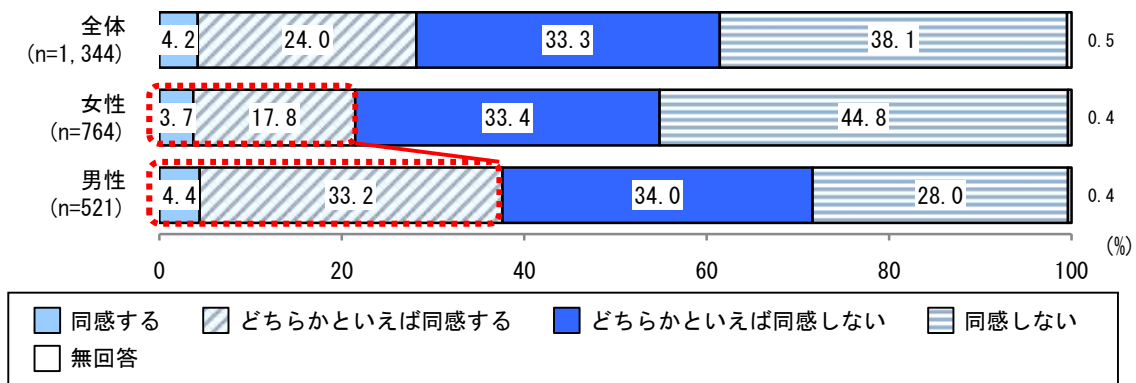
性別役割意識について（39～40頁）※頁数は調査結果本編での該当頁を示しています（以降同様）。



前回調査に比べると、『不同意』の割合が30代以上の年代で増加している。
「男は仕事、女は家事・育児」に『同意』割合は男性のほうが高い。

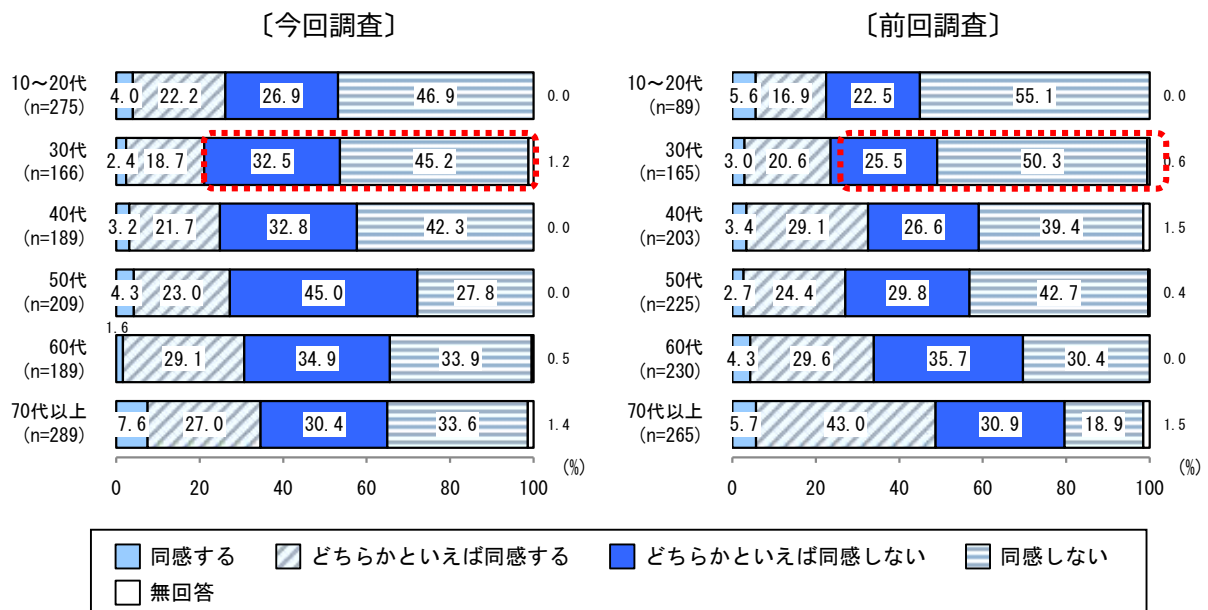
「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、男性で『同意』の割合が37.6%と、女性（21.5%）より16.1ポイント高くなっています。

【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方】



また、年代別で前回調査と比較すると、『不同意』の割合が30代以上の年代では前回より高くなっています。特に、前回調査では70代以上で『同意』が半数近くを占めていたのが、今回調査では『不同意』が6割を超えて高くなっており、すべての年代で『不同意』が『同意』を大きく上回っています。

【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方 前回調査との比較】



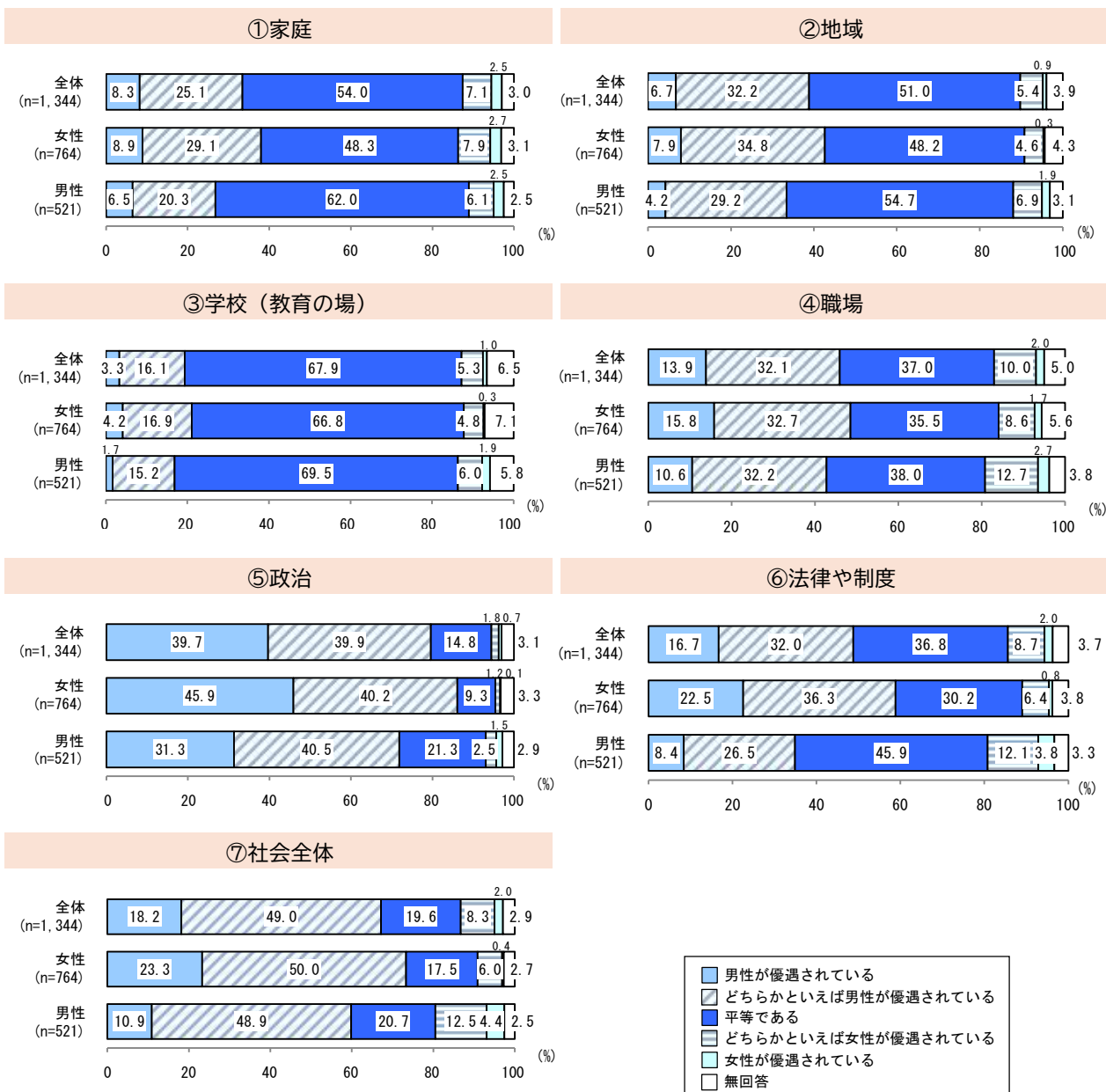
Ⅲ

男女の平等感について (22～35頁)

POINT いずれの分野においても、女性で『男性優遇』と感じる割合が男性より高く、特に「政治」において、『男性優遇』と感じる割合が最も高い。

「⑤政治」、「⑦社会全体」において、『男性優遇』と感じる割合が全体で6割以上を占めており、「⑤政治」で最も高くなっています。

「③学校（教育の場）」においては、「平等である」が全体で67.9%と7割近くを占めています。



IV

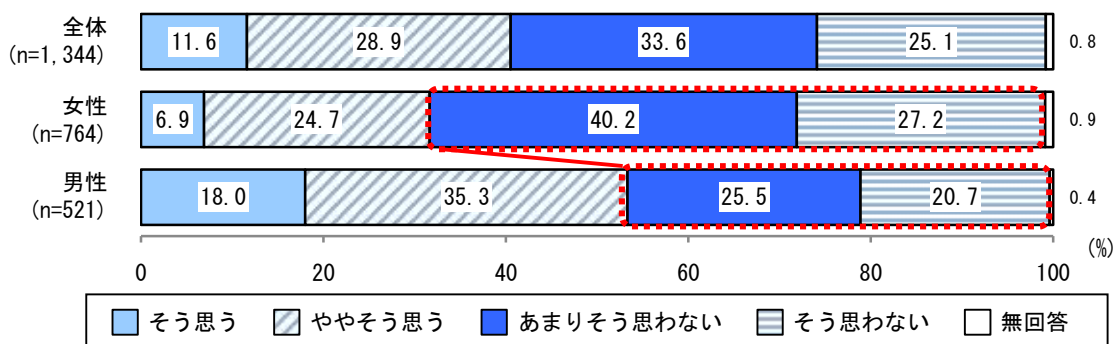
子育ての考え方について (52~53頁)

POINT

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について、女性では『そう思わない』の割合が高い一方で、男性では『そう思う』の割合が高い。

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべき」という考え方については、女性で『そう思わない』が67.4%と、男性（46.2%）より21.2ポイント高くなっています。一方で、男性では『そう思う』が53.3%と5割以上となっています。

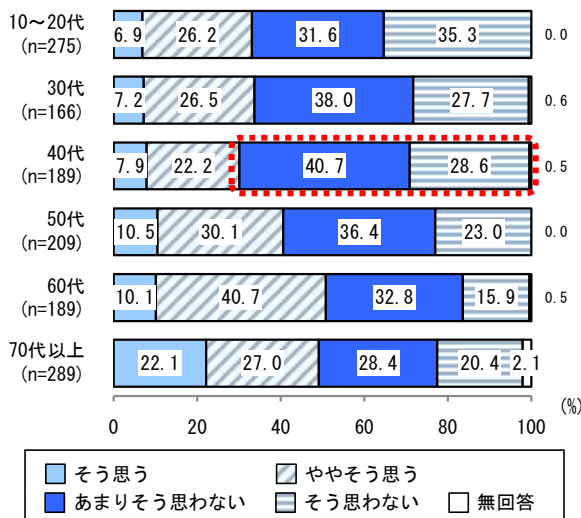
【「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について】



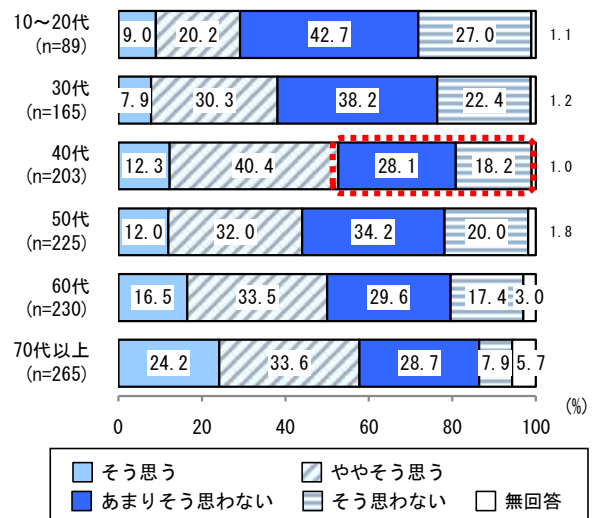
年代別で前回調査と比較すると、『そう思わない』と感じる割合が40代（69.3%）では前回調査（46.3%）より23.0ポイント高くなっています。

【「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について 前回調査との比較】

〔今回調査〕



〔前回調査〕



主な仕事、家事・育児時間、希望する働き方について

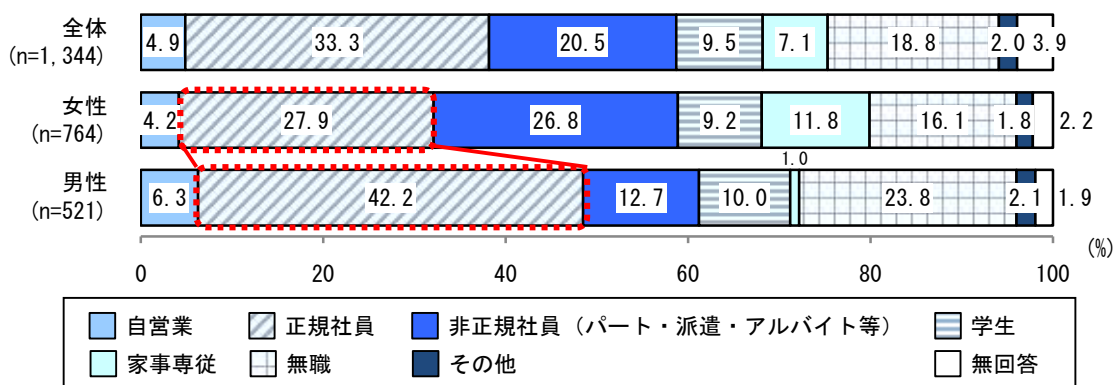
(17～19頁・44～46頁)



主な仕事は男女とも「正規社員」が多いが、女性では「非正規社員」の割合が男性より高い。

現在の主な仕事について、男女ともに「正規社員」が最も高くなっているものの、男性が42.2%と、女性（27.9%）より14.3ポイント高くなっています。女性では「非正規社員」が26.8%、「家事専従」が11.8%と、ともに男性より10ポイント以上高くなっています。

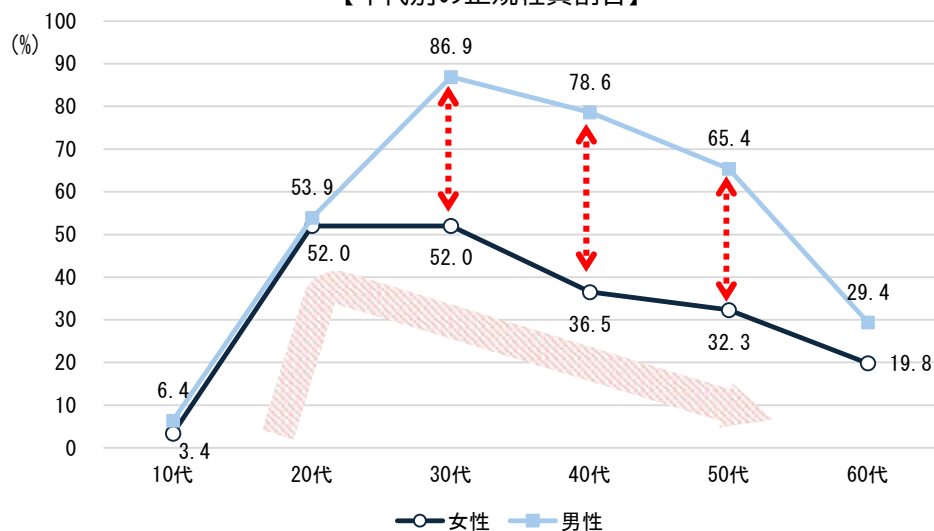
【性別での就労状況】



女性の正規職員割合は、30代をピークに減少傾向となる「L字カーブ」を描いている。性別で30～50代で30ポイント以上の差がみられる。

正規職員の割合を年代別にみると、女性では30代の52.0%をピークに減少傾向となっており、出産を契機に女性が非正規雇用化すること等によって、正規雇用比率が年代とともに低下する「L字カーブ」を描いています。

【年代別の正規社員割合】



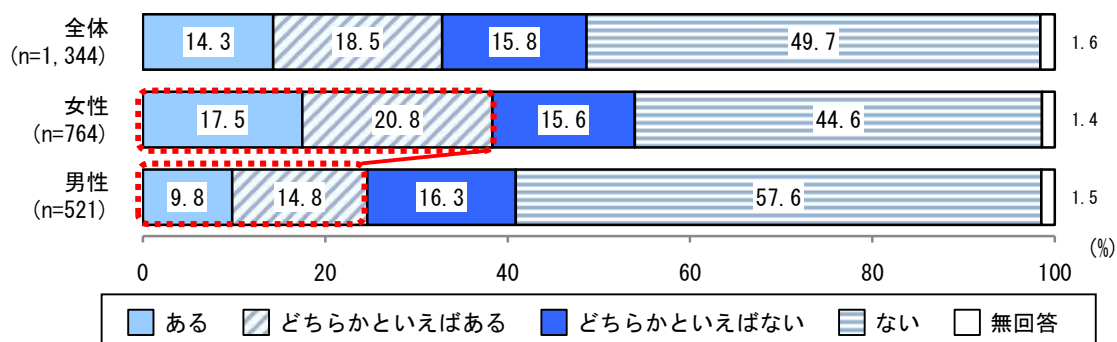
POINT

育児、介護などで時間の『制約がある』割合は男性より女性のほうが高く、年代別でみると、30代が53.1%で最も高く、次いで40代が49.2%。

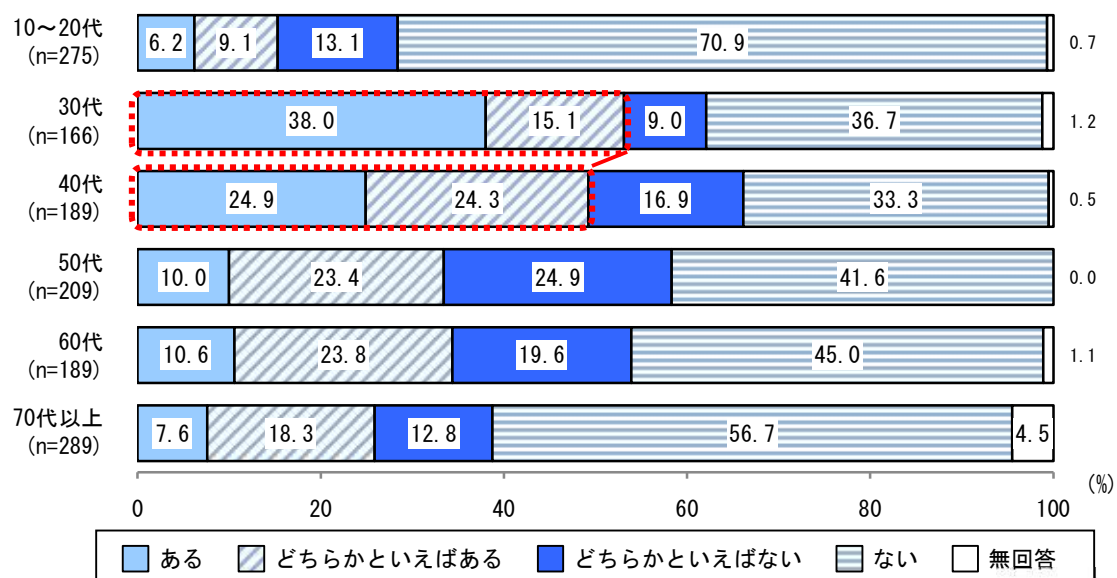
育児、介護などで時間の制約があるかについては、「ない」が約半数を占めていますが、性別でみると、『制約がある』割合は、男性（24.6%）より女性（38.3%）のほうが13.7ポイント高くなっています。

年代別でみると、『制約がある』割合は30代が53.1%で最も高く、次いで40代が49.2%となっています。

【育児、介護などの時間の制約】



【育児、介護などの時間の制約】



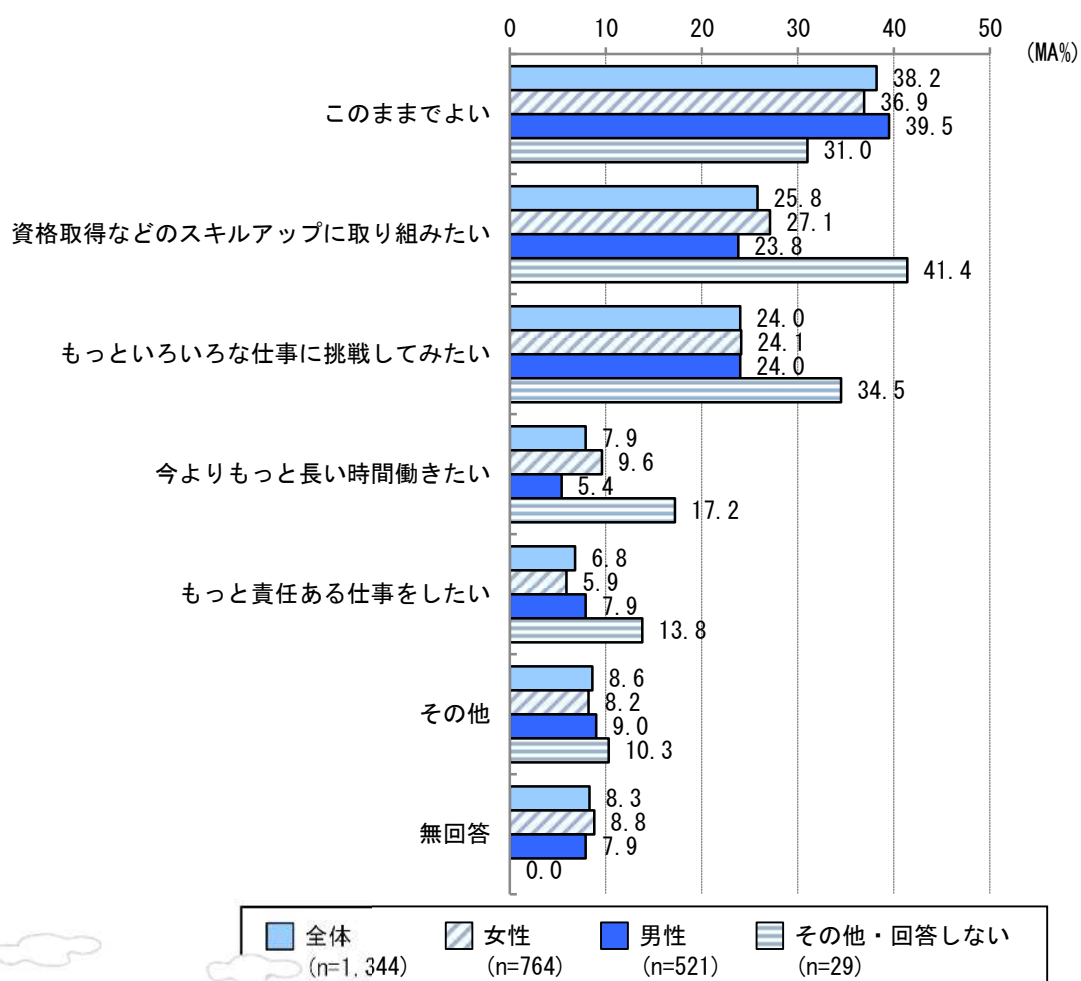


制約の要因がなくなった場合の希望する働き方について

「資格取得などのスキルアップに取り組みたい」、
「今よりもっと長い時間働きたい」の割合は、女性のほうが高くなっている。

希望する働き方については、「このままでよい」が38.2%、「資格取得などのスキルアップに取り組みたい」が25.8%、「もっといろいろな仕事に挑戦してみたい」が24.0%となっています。

性別でみると、「今よりもっと長い時間働きたい」の割合は男性(5.4%)より女性(9.6%)のほうが4.2ポイント高くなっています。



地域活動における男女の役割分担について (47～51頁)

POINT

「行事の準備や片付け」「地域活動への参加」は女性が担うことが多い一方で、
「団体の長になる」ことは男性が担うことが多い。

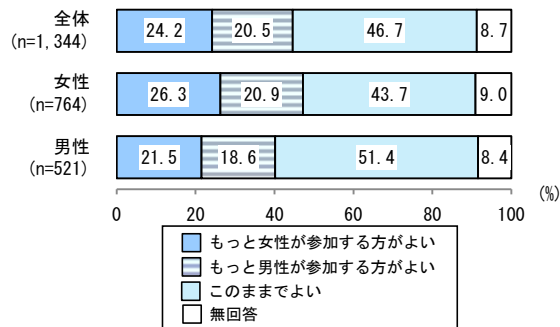
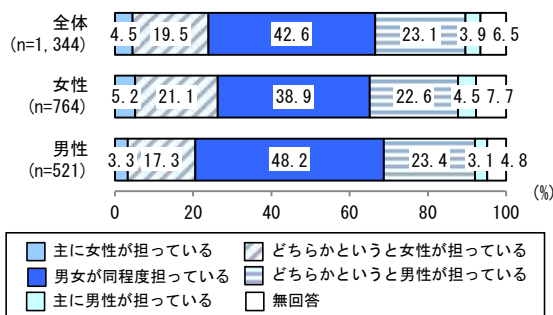
地域活動の男女の役割分担の実態については、「⑤団体の長になる」において、「どちらか」というと男性」が最も高く、その他では「男女同程度」が最も高くなっています。

地域活動の男女の役割分担への考えについては、「①地域活動の企画立案」・「③話し合いの場での発言」・「⑤団体の長になる」・「⑥防災・防犯活動への参加」において、「もっと女性が参加する方がよい」が2割以上を占めています。また、「②行事の準備や片付け」・「④地域活動への参加」において、「もっと男性が参加する方がよい」が3～4割程度を占めています。

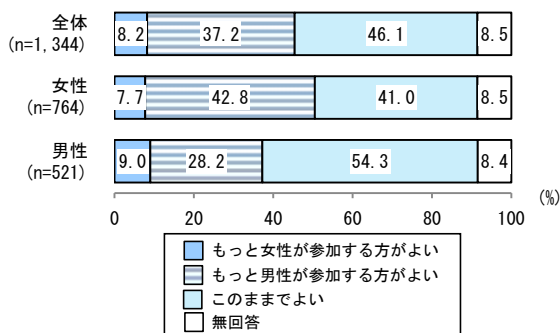
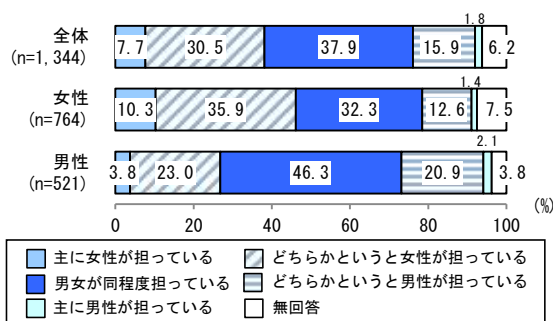
(A) 男女の分担の実態

(B) 考え

① 地域活動の企画立案



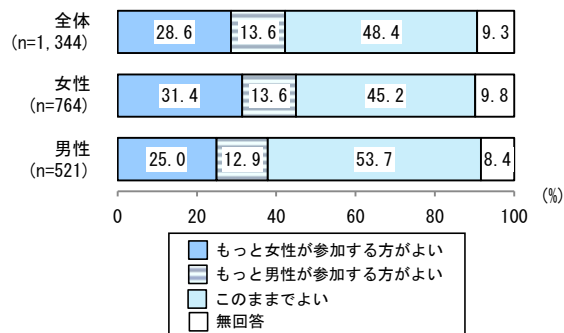
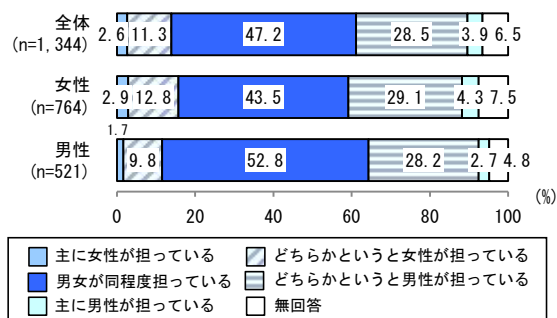
② 行事の準備や片付け



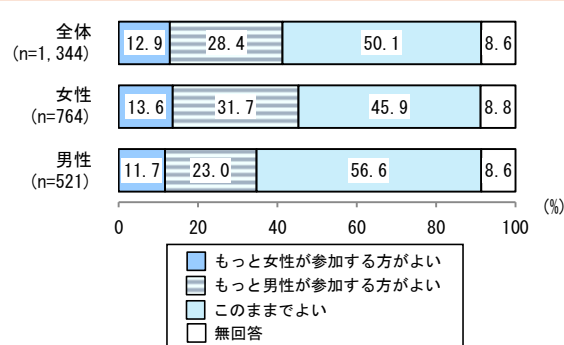
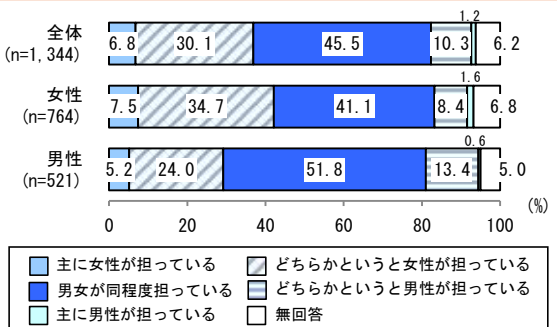
(A) 男女の分担の実態

(B) 考え

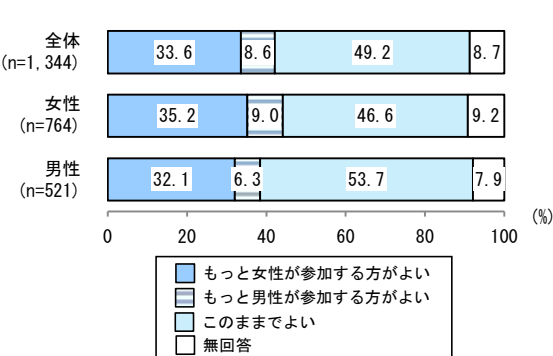
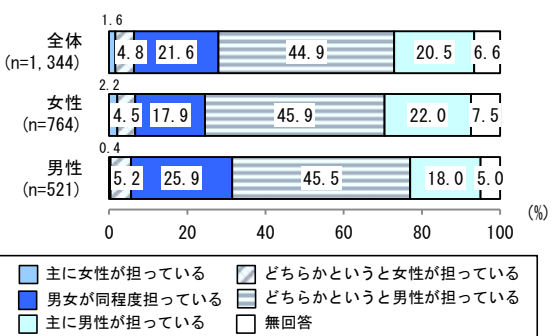
③ 話し合いの場での発言



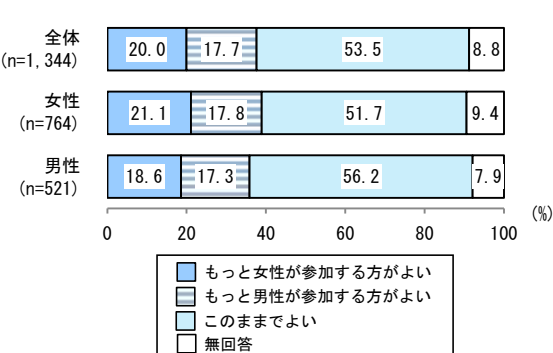
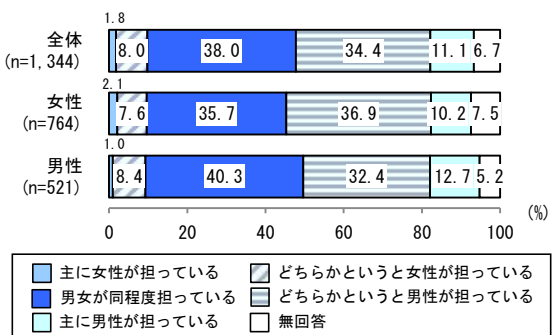
④ 地域活動への参加



⑤ 団体の長になる



⑥ 防災・防犯活動への参加



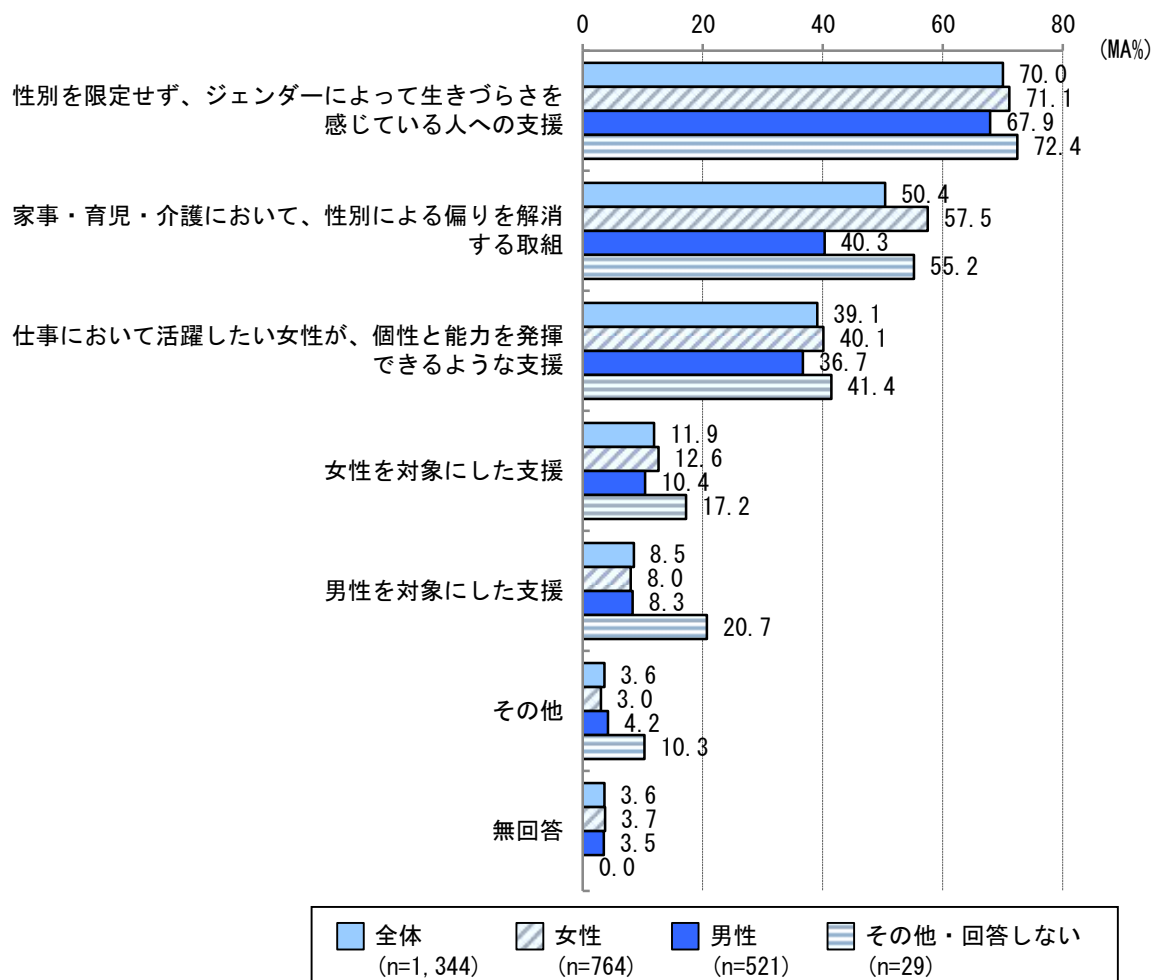
男女共同参画に向けて必要な取組（67～68頁）



「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」の割合は
男性（40.3%）より女性（57.5%）のほうが17.2ポイント高い。

男女共同参画に必要な取組については、「性別を限定せず、ジェンダーによって生きづらさを感じている人への支援」が70.0%で最も多く、次いで「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」が50.4%、「仕事において活躍したい女性が、個性と能力を発揮できるような支援」が39.1%となっています。

性別でみると、「家事・育児・介護において、性別による偏りを解消する取組」の割合は男性（40.3%）より女性（57.5%）のほうが17.2ポイント高くなっています。



配偶者やパートナー、恋人からの暴力について (69～83頁)



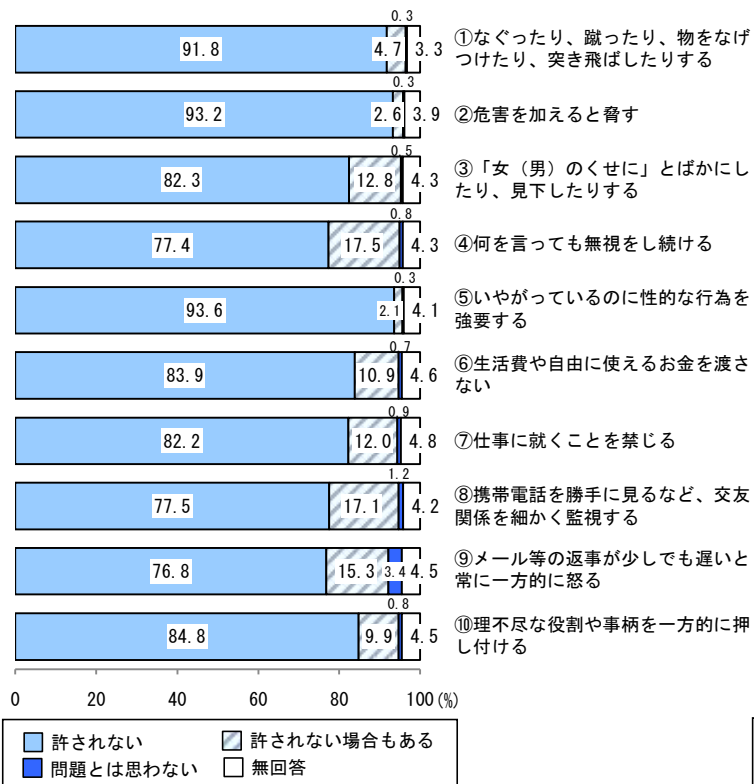
身体的・性的暴力などに比べ、
精神的・経済的・社会的暴力での問題意識が薄い傾向がみられる。

暴力の考えについては、男性は「④何を言っても無視をし続ける」・「⑧携帯電話を勝手に見るなど、交友関係を細かく監視する」・「⑨メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る」で、「許されない場合もある」と「問題とは思わない」の合計が2割以上となっています。

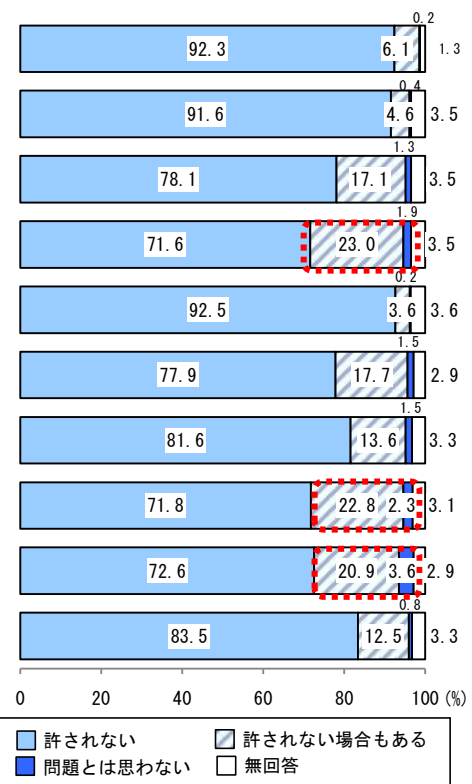
性別にみると、すべての項目において、「許されない場合もある」と「問題とは思わない」の合計が男性のほうがやや高くなっています。

【暴力の考えについて】

【女性 (n=764)】



【男性 (n=521)】



暴力の分類	内容	対応する調査項目
身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつけるなど、直接相手の身体を傷つける暴力	①
性的暴力	性行為を強要する、避妊に協力しないなど、同意のない性行為を相手に強要する暴力	⑤
精神的暴力	大声でどなる、ばかにするなど、心無い言動で相手の心を傷つける暴力	②・③・④・⑨・⑩
経済的暴力	生活費を渡さない、仕事を制限するなど相手を経済的に苦しめる暴力	⑥・⑦
社会的暴力	携帯をチェックする、交友関係を監視するなど、相手を社会的に孤立させる暴力	⑧



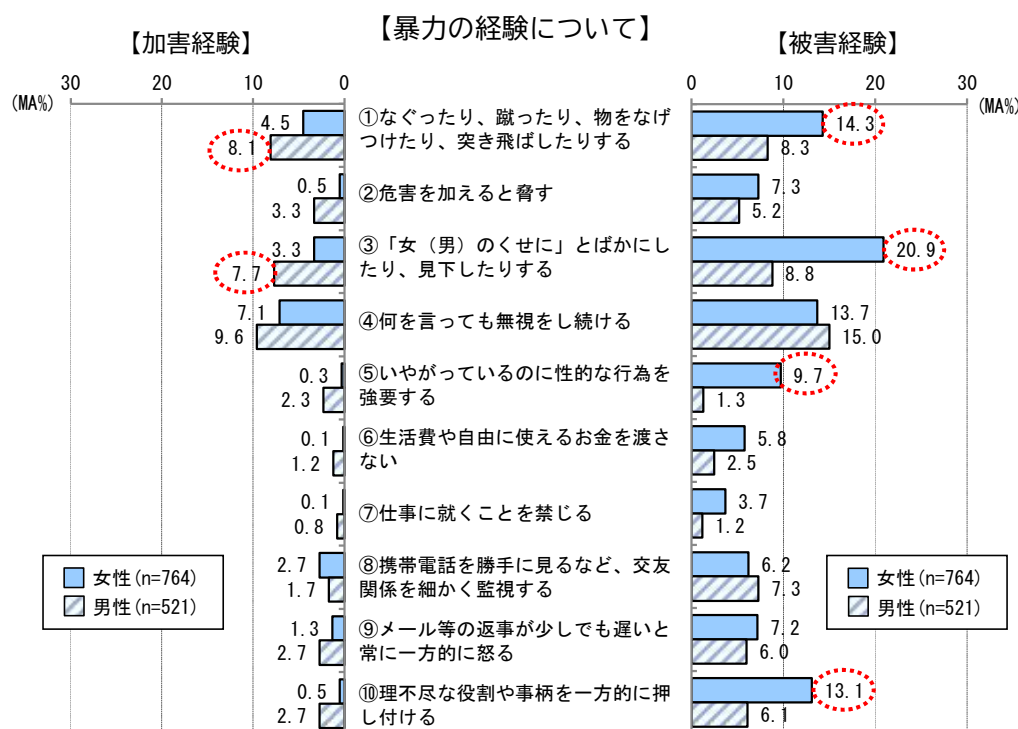


暴力の被害経験のある割合は、ほとんどの項目で女性が男性より高い。

・子ども時代に暴力を目撃した人では、暴力の加害・被害経験のある割合が高い。

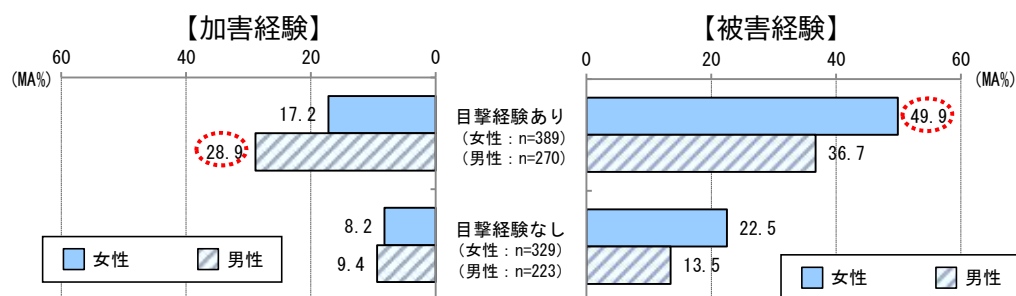
暴力の経験については、加害経験において、男性で「①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする」・「③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする」が女性より3ポイント以上高くなっています。

被害経験では、女性で「①なぐったり、蹴ったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたりする」・「③「女（男）のくせに」とばかにしたり、見下したりする」・「⑤いやがっているのに性的な行為を強要する」・「⑩理不尽な役割や事柄を一方的に押し付ける」が、男性より5ポイント以上高くなっています。



子ども時代に暴力の目撃経験がある人では、暴力の加害経験、被害経験のある割合が、目撃経験のない人よりも高くなっています。

性別にみると、加害経験は、目撃経験のある男性で28.9%と、目撃経験のある女性(17.2%)より11.7ポイント高くなっている一方で、被害経験は、目撃経験のある女性で49.9%と、目撃経験のある男性(36.7%)より13.2ポイント高くなっています。



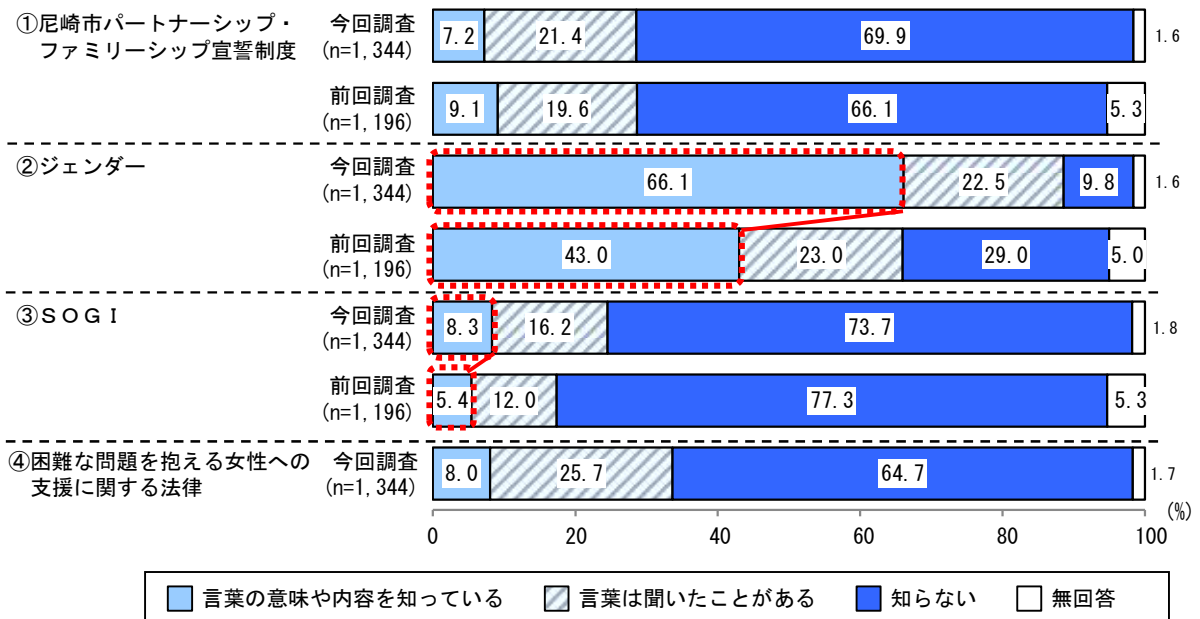
男女共同参画施策の認知度について (57～62頁)

POINT

前回調査より、「ジェンダー」・「SOGI」の認知度が向上している。

男女共同参画施策等の認知度については、前回調査より、「②ジェンダー」・「③SOGI」で「言葉の意味や内容を知っている」割合が高くなっています。特に、「②ジェンダー」については前回調査から23.1ポイント高くなっており、認知度が大きく向上しています。

【男女共同施策等の認知度について】



※前回調査と比較すると、①の「知らない」の割合が高くなっている理由として、令和7年(2025年)6月より、制度内容を拡充したことで、制度名称が“パートナーシップ宣誓制度”から“パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度”に変更になったことが要因の一つとして考えられる。



尼崎市男女共同参画に関する市民意識調査報告書 《概要版》

令和8年(2026年)3月

尼崎市役所 総合政策局 文化・人権担当
ダイバーシティ推進課

住 所：〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目23番1号

電 話：06-6489-6658

FAX：06-6489-6661

メール：ama-danjo@city.amagasaki.hyogo.jp